

■ 平成 29 年度 第 2 回 新潟市立亀田図書館協議会

日 時：平成 29 年 11 月 7 日（火）午前 10 時～

会 場：江南区文化会館 講座室 1

（司 会）

本日もお忙しい中、ご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

平成 29 年度第 2 回亀田図書館協議会を始めさせていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます、亀田図書館の吉川でございます。よろしくお願いいたします。

まず、資料の確認をさせていただきます。事前にお送りいたしました資料、次第と名簿のほか、資料 1 から資料 3 までございますが、よろしいでしょうか。本日、座席表のほか、皆様から評価をいただく用の評価シートを置かせていただいております。参考としましては、県の図書館協会報を置かせていただきました。そろっておりますでしょうか。

まず、館長の真柄よりごあいさつ申し上げます。

（館 長）

皆様おはようございます。本日は、お忙しい中、亀田図書館協議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。第 1 回の際にも触れさせていただいたのですけれども、この 10 月をもちまして、亀田図書館は移転開館 5 周年を迎えることができました。今月 23 日には、それも記念いたしまして、「江南区の砂丘の地理と歴史」ということで、講演会を開催させていただきます。もしご興味があるようでしたら、ご出席いただければと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

（司 会）

議事に移ります前に、本日は今の時点で 9 名の方からご出席をいただいております。委員定数の半数以上となっておりますので、新潟市図書館協議会運営規則第 4 条により会議が成立しておりますことをご報告いたします。

この会議は公開といたしまして、発言を記録のうえ、後日、公開させていただきますので、ご了承ください。なお、現時点で傍聴の方はいらっしゃいません。

それでは、早速、議事に移らせていただきたいと思います。ここから、佐藤会長、議事進行をよろしくお願いいたします。

（会 長）

おはようございます。次第にしたがって議事を進めます。速やかな議事進行に努めますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

まず「(1) 平成 28 年度事業最終報告について」、事務局から説明をお願いいたします。

（館 長）

資料 1 - 1 から資料 1 - 3 についてご説明いたします。こちらは平成 28 年度の利用統計や事業報告の確定版となります。第 1 回の際にご報告いたしました数値や内容等、修正があった部分には、網掛け、もしくは下線でお示ししてありますので、ご確認いただければと思います。その中で、第 1 回の際にご指摘いただきました事業対象区分の児童の表記についてですが、資料 1 - 3

をご覧ください。1 ページ、実績集計の表の下のところの下線で引いてあるのですが、図書館の一般的な「児童」の対象というのが、高校生以下となっておりますので、ご了承いただければと思います。

次に、資料1-4の亀田図書館決算概要につきましては、吉川から説明いたします。

(事務局)

資料1-4「平成28年度亀田図書館決算概要」ということでご報告申し上げます。

先月、市議会に認定された平成28年度新潟市一般会計決算のうち、亀田図書館の執行分を抽出したものでございます。まず、上の歳入でございますけれども、予算収入済額、増減等、記載のとおりでございます。コピー代や資料の賠償代ということで、もともとわずかな金額でございますので、増えた、減ったと言いましても、影響の小さい額ということでございます。

続きまして、歳出ですけれども、内訳といたしましては、上段の事業費、中ほどの資料購入費、下段の管理費と大きく三つに分かれますけれども、それぞれ効率よく予算を執行して、事業を遂行できたと考えております。そのうち、中ほどの資料購入費予算現額1,334万円とございます。こちらはここには書いていないのですけれども、年度当初の予算額より60万円ほど多い数字になっております。図書館全体で年度途中で執行状況を精査しまして、執行の残分を集めて資料購入費に充てて、蔵書の確保に努めたということでありまして、これもご覧いただくとおり、余すところなく執行いたしました。合計予算現額1,984万円に対し支出済額1,972万549円。不用額11万9,451円、執行率は99.4パーセントとなりました。以上、簡単ではございますが、決算のご報告でございます。

(館長)

次に、資料1-5「平成28年度新潟市立図書館施策・事業評価シート」及び「平成28年度新潟市立図書館指標別評価シート」についてご説明をさせていただきます。このシートは、新潟市立図書館ビジョンの評価の項目にあります外部評価になります。毎年、協議会委員の皆様をお願いをしているものです。評価していただくにあたり、参考となるよう評価シートの自己評価につきまして説明いたします。まずシート1の「平成28年度新潟市立図書館施策・事業評価シート」をご覧ください。一番上、「ネットワークを活かした課題解決型図書館」ということで、全館共通の項目事項としまして、「課題解決のためのレファレンスサービスの充実」をあげております。こちらの実施結果といたしましては、館内の研修をはじめ、外部の研修会に参加をいたしました。その結果、レファレンス件数としましては、4,965件ということで、前年度比1,259件、40パーセント増となっております。自己評価といたしましては、館内研修の実施や館外研修に参加するなどして、職員のスキルアップに努めました。また、区だよりの図書館特集号の中でレファレンスサービスについてPRするなど、区民に対して周知を行いました。

次に、亀田図書館の重点評価項目は、「生活課題解決のための情報提供」ということで、実施結果といたしましては、ビジネスセミナーを開催しまして21名の方にご参加いただきました。また、行政書士無料相談会の開催ということで、こちらにも2名の方にご参加いただいております。この二つの事業の関連展示を行っております。自己評価としましては、ビジネスセミナーでは、市民の関心が高かったマーケティングについて取り上げまして、参加者が前年度比75パーセント増となりました。また、行政書士無料相談会では、相続や遺言について相談があり、市民の課題解決の一助となったと思っております。

次に、「特色ある地域づくりに寄与する分権型図書館」では、全館共通評価項目としまして、「地域資料の体系的な収集と活用」ということで、結果といたしまして、地域資料の収集、整理及び展示を行いました。地域資料の蔵書冊数なのですが、前年度比 248 冊増えております。自己評価としましては、郷土や行政資料など、地域資料の収集を積極的に行い、蔵書増につなげました。郷土関係の資料展示を 2 回実施いたしまして、市民へ地域資料の PR を行っております。

次に、館の重点評価項目としましては、「俳句資料の収集、保存及び活用」ということで、結果といたしまして、俳句資料の収集、整理を継続的に行いました。地域ゆかりの俳人、歌碑の写真資料の展示をこちらでも継続して実施いたしました。俳句をテーマにした文化講演会を開催いたしまして、66 名の方にご参加いただきました。また、中学生俳句作品展をこちらでも継続して実施いたしまして、95 句展示し、1,000 人以上の方からご来場いただいております。

自己評価といたしましては、俳句資料の積極的な収集を行いました。このたび、県外からの寄贈もございまして、亀田図書館の特別コレクションとして深みを増すことができました。また、文化講演会や中学生俳句作品展を実施したほか、田村委員にご協力をいただきまして、図書館だより「俳句の窓」を新設することによりまして、俳句について市民から関心を持ってもらえるよう取り組みを行いました。

次に、「子どもの読書活動を推進する学・社・民融合型図書館」についてご説明いたします。全館共通評価項目としましては、「子どもの読書環境の整備」ということで、結果としましてブックスタート事業を継続して実施いたしました。赤ちゃんタイムも継続して、毎週水曜日、実施いたしました。その赤ちゃんタイムの中で実施しています赤ちゃんタイムおはなしのじかんにつきましても、昨年度よりもご参加いただいている親子さんが増えているような状態です。うちどく読書ノートを配布いたしました。

自己評価といたしましては、ブックスタート事業を継続実施することで、乳幼児期の読書環境の大切さについて働きかけることができました。また、赤ちゃんタイムおはなしのじかんを平成 28 年度は月 1 回から 2 回に拡大いたしまして、乳幼児と保護者の方が絵本の読み聞かせやわらべうたの楽しさに触れる機会を増やすことができました。うちどく読書ノートを配布することによりまして、うちどくの推進を行いました。

その下、館の重点評価項目としましては、「子どもの読書活動を支えるボランティアの養成・支援」ということで、結果として、読み聞かせボランティア基礎講座を実施いたしまして、19 名の方にご参加いただきました。基礎講座の一環で交流会を実施いたしまして、既存のボランティアも合わせて 26 名の方にご参加いただきました。おはなしのじかんそのものも、昨年度より参加者が増えているような状態です。自己評価としましては、読み聞かせボランティア基礎講座の修了者 9 名の方を既存の読み聞かせボランティアに紹介しまして、活動につなげることができております。

「市民参画と協働を推進するパートナーシップ型図書館」ということで、全館共通評価項目としまして、「ボランティアや教育機関・民間団体等との協働」ということで、結果としましては、中学生の職場体験学習の受け入れを区内の中学校 4 校 11 名いたしました。ジョブトレを 1 人、受け入れしております。配架・書架整理ボランティアの活動も受け入れておりまして、こちらでも多くの方にご参加をいただいております。共催、協働事業の実施、昨年度に比べて 4 件増の 20 件となっております。自己評価としましては、ボランティアや職場体験等を積極的に受け入れたほか、

民間団体等との事業を実施することによりまして、市民との協働を推進することができました。

館の重点評価項目としまして、「地元の産業界との協働促進」ということで、結果としてアスパークまつりへの参画とまちゼミ in かめだへの協力ということで挙げてあります。自己評価といたしましては、アスパークまつりでは、おはなしのじかんスペシャルの実施やオリジナルのしおりの作成・配布を行いました。まちゼミ in かめだでは、講座に関連するブックリストを作成・配布し、図書館の中で関連展示を行うことによりPRしたということになっております。

次に、シート2の「新潟市立図書館指標別評価シート」をご覧ください。上の「図書館運営」の部分ですが、おおむね前年度実績を上回っております。自己評価としましては、移転開館いたしまして5年がたち、利用が落ちついてきていることと、この評価指数が江南区内の四つの地区図書室の数値が入っていることもありまして、利用拡大をした3地区図書室について挙げさせていただいております。

次に、その下の「施策・事業」の部分ですけれども、「ネットワークを活かした課題解決型図書館」のレファレンス件数につきましては、目標を上回ることができましたが、個人予約件数につきましては、記述されているとおり、システム変更によりスマートフォンでも予約ができるようになったということが大幅増につながりましたが、昨年度はそのままその利用が落ちついたというような状況になっております。

次に、「特色ある地域づくりに寄与する分権型図書館」ですが、江南区をはじめ、新潟市や県の郷土資料、行政資料を積極的に収集・登録することができ、それらの資料を手にとってもらえるよう、資料展示を行うことで目標を上回ることができました。

次に、「子どもの読書活動を推進する学・社・民融合型図書館」では、読み聞かせボランティアの皆さんのお力を借りながら、赤ちゃんタイムおはなしのじかんの拡大やおはなしのじかんスペシャルなど、事業が利用者の皆様にだんだん定着してきたこともありまして、子ども・親子対象事業の参加者数を伸ばすことができました。

次に、「市民参画と協働を推進するパートナーシップ型図書館」ですが、新たな読み聞かせボランティアを養成するため、基礎講座を実施し、既存の団体へ紹介することで活動を活性化することができました。また、共催・協働事業につきましては、図書館から関係機関や民間団体への働きかけを行ったことによりまして、事業数を増やすことができました。

最後に、「効率的・効果的な運営」の部分ですが、館内研修をはじめとしまして、専門的なものや仕事をするうえで必要なスキルを身につける研修等へ参加することで、目標を達成することができました。

(会 長)

ありがとうございました。ただいまの事務局の説明に質問やご意見がありましたら挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

今ほど、資料1-5で報告のありました評価シートについては、委員の皆様からそれぞれ評価をいただいて、それを集約して外部評価とします。手続きについては、議事終了後に事務局から説明してもらいますので、皆様よろしく願いいたします。

次の議題に移ります。「(2)平成29年度事業中間報告について」、事務局、お願いいたします。

(館 長)

資料2-1「図書館ビジョン評価指標 亀田図書館平成29年度中間実績」をご覧ください。資

料にあります平成29年度の数値は、すべて暫定値となっておりますので、ご了承ください。まず、図書館運営部分の各評価指数につきましては、前期分の数値がおおむね前年度比の50パーセントで推移していることから、前年度並みの数値となっております。

施策・事業部分につきましては、目標の半分以下のものも見受けられますが、おおむね順調に推移しております。

裏の「評価指標中間実績 館・室別内訳」につきましては、地区図書室別の数値がお示ししております。こちらも昨年度並みということで推移しております。

続きまして、資料2-2「平成29年度亀田図書館 事業報告」をご覧ください。Iの運営方針につきましては、新潟市立図書館ビジョンで掲げております、目指す図書館像の四つの柱に基づきまして、亀田図書館の運営方針を策定しております。内容につきましては、第1回の協議会の際にお示ししたとおりとなっております。

次に、IIの事業報告をご覧ください。ここでは今年度、新規で実施したもの、これから実施するものにつきましてご説明をさせていただきます。II-1の実施事業の3ページにあります「5★江南区文化会館合同事業」がございますが、こちらは今年度初めて文化会館内の二つの施設、公民館、郷土資料館と一緒に連携して実施したものです。図書館としましては、図書館プチッと体験ということで、おはなしのじかんスペシャルと、なかなかご体験いただけない本にフィルムをコーティングする体験を実施いたしました。こちらに関しましては、来年度も引き続き、合同で事業を実施する予定です。

次に、秋の読書週間事業の一般向けです。こちらが4ページ目がございます。こちらも★がついていますが、開館5周年記念講演会「江南区の砂丘の地理と歴史」につきまして一つ加筆をお願いしたい部分があります。「目指す図書館像」が空欄になっているかと思うのですが、そちらの欄にイ、エをご記入いただければと思います。大変失礼いたしました。この講演会ですけれども、地域に根ざした図書館を目指す姿勢をアピールするための一つとして、今回は砂丘をテーマに江南区の地理と歴史をみなとびあの学芸員の方を講師にお招きしまして、開催いたします。

次に、その他の事業の3番目にあります、江南区読み聞かせボランティア交流会というものを今年度実施する予定です。今、亀田図書館で活動いただいている団体の皆さんの間で情報交換などを通して交流を深めてもらうためのものです。資料には、開催期間が未定となっておりますけれども、現在、12月から1月にかけて開催することで日程調整を行っているところです。

次に、6ページの「8 職員研修」をご覧ください。亀田図書館館内研修は今のところ未実施と入れておりますが、業務上のサービスの平準化を図るため、レファレンスと歴史的資料の取り扱いにつきまして、年度当初に研修を行っております。

次に、「9 広報」です。(1)の図書館だよりにつきましては、協議会でいただいたご意見を参考にいたしまして、イオン新潟南、アピタ亀田店と亀田第一病院を新たな配布場所として増やすことができっております。

次に、「10 その他」です。「(1) もっと身近な図書サービスに向けた改善」なのですが、予約本受取サービスにつきましては、両川地区図書室で今、実施しているところなのですが、両川連絡所をはじめとする関係各課のご協力をいただきながら、10月からモデル実施が始まっております。新しい団体貸出につきましては、何件かお問い合わせをいただいているのですが、新規登録というところまではいっておりませんで、ただ、活発に団体の皆様からはご活用はいた

だいております。

(会 長)

ありがとうございました。ただいまの事務局の説明に質問や意見などありましたら、挙手をお願いいたします。

(村山委員)

今、館長から広報の図書館だよりの配布先の追加、第一病院、アピタ、イオン南と言われましたけれども、アピタとイオン南はどこにあるのでしょうか。受付か何か、サービスコーナーか何かですか。あまり広いからどこにあるのかなど。大体、病院といった場所であれば受付が分かるのですけれども、教えてください。

(事務局)

イオンは、担当の方にお任せするという形になっています。アピタは区のいろいろな情報を掲示・掲出できるスペースを設けていただきました。

(村山委員)

掲示板がありましたか。

(事務局)

はい、設けていただいたスペースがありまして、子供服ですとかを売っているところの近くエレベーターのところだと思うのですけれども。

(村山委員)

真ん中ですね。

(事務局)

そうですね。口で説明しづらいのですが、コーナーがあります。

(会 長)

ほかに何かご質問ありますか。

(垣内委員)

その他のところ、「もっと身近な図書館サービス」に向けた改善で、両川地区図書室を含む市内5地区図書室というのですけれども、この5か所がどこか教えてください。

(館 長)

両川地区図書室のほか、北区の南浜、中央区の大形、西区にある赤塚と中野小屋です。

(会 長)

ほかにご意見は何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

次の議題に移ります。「(3) 今後の亀田図書館の運営について」、事務局から説明をお願いいたします。

(館 長)

資料3-1「亀田図書館実績 移転前後の年次推移及び移転後累計」をご覧ください。この資料は、これから今後の亀田図書館の運営につきまして話し合っていくための参考資料となっております。次ページにあります、「亀田図書館実績 年次推移」につきましては、前についております一覧を基にグラフ化したものとなっております。大体、各項目とも増加傾向にあります。そろそろ利用も落ちついてきているような状態ですので、今後はなるべくこの水準を保っていきようにしていかなければいけないと考えております。

「平成 28 年度 亀田図書館蔵書・貸出内訳」につきましては、蔵書と貸出のバランスがどのようになっているのかということを見ていただければと作成いたしました。おおむね蔵書と貸出のバランスが整っているのではないかと思います。

続きまして、資料 3-3「平成 30 年度 亀田図書館運営方針及び事業計画の策定に向けて」ということで、直近の成果と課題を挙げさせていただいております。館の運営に関しまして、堅調な利用実績も底上げが必要となっております。市立図書館で亀田図書館は 3 番目の利用実績になっております。堅調に推移をしておりますが、新館効果としては、かなり落ち着きが出てきているところです。市立図書館全体で、利用登録率が 2 割弱ということで、まだまだ市民の皆さんにご利用いただいているというには難しいところで、既存利用者以外の方をターゲットに今後、底上げが必要な水準になっております。

次に、かつてない厳しさが見込まれる予算環境ということで、こちらは事業、経費の抜本的な見直しが必要になってきております。

先ほども少しお話ししましたが、「もっと身近な図書サービス」に着手ということで、今年度、団体貸出の対象及びサービスを拡充しております。また、両川地区図書室での予約本受取サービスの試行をしているところです。地域で図書館資料を活用してもらう方策の検討が今後、必要になっていると感じています。

次に、目指す図書館像の四つの柱ごとにお話をしていきます。「ネットワークを活かした課題解決型図書館」のところですが、レファレンス実績増も掘り起こしが必要と感じております。資料の所蔵確認は年々大きな伸びをしております。資料の予約件数も堅調に伸びております。調査・相談事案は横ばいになっております。サービスの周知やニーズの掘り起こしが今後、必要と考えております。サービスを実施するにあたりまして、対応する職員のスキルアップは、不断の取り組みとして必要と感じております。

2 番目、生活課題解決、ビジネス支援のさらなる有効化ということで、関係団体と協働で事業を実施しまして、関連資料を展示して、一定の成果が出てきております。その一方で単発事業では効果が限定的になっているのが現状です。

次に、「2 特色ある地域づくりに寄与する分権型図書館」につきましてご説明いたします。地域資料の蔵書は着実に増えてはいますが、利用は横ばいの状態です。平成 29 年度は利用拡大に向けまして、事業や展示などで積極的に地域資料を紹介いたしまして、上半期は実績が伸びております。また、併設施設と連携した取り組みを積極的に拡大しております。先ほども説明させていただきました、今年度初の公民館、郷土資料館との協働事業を実施することができました。また、併設施設で行われています事業に合わせた展示や PR などの取り組みも今、強化しているところです。

次に、「3 子どもの読書活動を推進する学・社・民融合型図書館」につきまして、説明いたします。児童書の利用は、こちら堅調に推移しております。移転開館以後、毎年、貸出点数が増えております。今年度も順調に伸びている状態です。施設に優位性があるほか、利用者の方も寛容に受け入れてくださっている状態です。多少、子供たちが声を出して騒いでいても、寛大な目で大人の方たちは見ていただいていると感じております。ですので、今後、利用拡大につなげていけたらと思っております。

2 番目、おはなしのじかんが大幅増も、現状の体制では開催は頭打ちということで、回数及び

1 回当たりの参加者というのは増加傾向にあります。平成 28 年度まで 3 か年で参加者が 9 割増えております。昨年度から導入しております、参加した子供たちにスタンプを押して、たまると記念品を差し上げるというスタンプカードの導入や、区内園児全員への周知など、参加者増に向けた取り組みを実施しております。

図書館がそのニーズを拡大させるとともに、受けきれだけの機会を今後、提供する必要を感じております。

次に、「4 市民参画と協働を推進するパートナーシップ型図書館」についてご説明いたします。ボランティアの活躍が成果に直結、育成・支援の必要性ということで挙げてあります。おはなしのじかん、ブックスタートのほか、日常の館運営でもボランティアの方たちに大きな役割を担っていただいております。書架・配架ボランティアは、少し減っているような状態です。図書館の事業拡大の主体、利用拡大の受け皿として、ボランティアのさらなる育成・支援が必要と感じております。

次に、地域団体等との協働には一定の成果もありますが、より密度の濃い連携方策の検討が必要になっております。アスパークまつりやまちゼミ in かめだでは、地域特性に沿いまして、普段接点を持ちにくい産業関係団体との連携強化を図られる取り組みを行っております。これをさらにネットワークをより深め、相乗効果を上げられる施策につなげる必要があると感じております。

これを踏まえまして、「平成 30 年度運営方針骨子（素案）」をご覧ください。こちら基本的には今年度と同様の内容になっておりますが、一部、見直しを行いたいと考えている部分を下線でお示ししております。

「1 ネットワークを活かした課題解決型図書館」としまして、課題解決のためのレファレンスサービスの充実ということで、市民に身近な課題解決のためのレファレンス（調査・相談）のサービスを周知拡大するとともに、充実させて、迅速かつ的確な情報提供を行いたいと考えております。

2 番目、生活課題解決を支援する事業の実施と情報提供ということで、こちらが市民に身近な生活課題解決やビジネス支援のため、関連事業の実施や展示のほか、有用な情報を提供する取り組みを行いたいと考えております。図書館は、読書活動を支援するだけではなく、調べ物をする際に役立つ施設であるということを周知していきたいと考えております。

次に、「2 特色ある地域づくりに寄与する分権型図書館」です。こちらも引き続き、俳句資料を中心とした地域資料の体系的な収集・保存及び活用ということで、亀田図書館の特色としまして、俳句資料を収集保存し、利用に供するとともに、俳句関連の事業・展示を継続的に実施するなど、地域コレクションを形成して、活用していきたいと考えております。

2 番目、併設施設と連携した事業の実施、こちらはその複合施設の優位性を生かしまして、併設施設である文化会館、公民館及び郷土資料館と連携しまして、地域の特色を反映した事業を実施したいと考えております。

次に、「3 子どもの読書活動を推進する学・社・民融合型図書館」ということで、子どもの読書環境の整備としまして、今、毎週水曜日に実施しております、赤ちゃんタイムの実施曜日を拡大しまして、より子育て世代にやさしい図書館を実現して、利用増を図りたいと考えております。また、ブックスタートやおはなしのじかんなど、子ども対象の事業を継続して行うほか、教育機

関等への講師派遣、各種展示・広報等を通じまして、総合的に子どもの読書活動を整備していきたいと考えております。

次に、「4 市民参画と協働を推進するパートナーシップ型図書館」としまして、ボランティアや教育機関、地元の産業界などとの協働事業の実施を行いたいと考えております。各種ボランティアや教育機関のほか、地元の商工・農業関係者及び区の関係課などとの協働によりまして事業を実施し、市民との協働を推進していきたいと考えております。

「5 効率的、効果的な運営を目指して」ということで、「もっと身近な図書サービス」の推進として、平成29年度に取り組みを始めました地区図書室資源や図書館資料を活用した新たなサービスについて、検証や課題整理を踏まえながら推進して、より多くの市民の読書活動を支援していきたいと考えております。

2番目、職員研修の実施・参加及び広報の充実ということで、職員研修への積極的な参加や館内研修の実施により職員のスキルアップを図るとともに、広報の充実により亀田図書館の利用の拡大を進めていきたいと考えております。

次のページを続けてご説明いたします。「Ⅱ 平成30年度事業実績の方向性(素案)」につきましては、実施事業といたしまして、おはなしのじかん(絵本の読み聞かせ)の定例会を昨年度と同様に月5回のペースで実施していきたいと考えております。

「2 こどもの読書週間事業」ですが、こちらも平成29年度並みに児童による本の紹介この本だいすき!ですとか、おはなしのじかんスペシャルを実施する予定でおります。

「3 アスパークまつり」につきましては、6月3日に開催予定ですので、例年同様、実行委員会の一員として参画しまして、図書館での事業を行いたいと考えております。

「4 夏休み事業」につきましては、子ども向けの図書館の業務体験は人気も高く、自由研究などにも向いているようで、適宜内容・手法を検討しつつ実施したいと考えております。従来、イベント系の事業に力を注いでいますけれども、夏休みと言いますと子どもたちが自由研究やいろいろとありまして、そのためのレファレンスの周知やさらなるニーズの掘り起こしの強化に軸足を置くことも視野に考えております。実際に子どもたちに図書館で調べ物のお手伝いをするとしょかん探偵局というものを毎年、新潟市立図書館全館で呼びかけているのですけれども、これをもっと区内にPRして、利用につなげていけたらと考えております。

「5 秋の読書週間事業」といたしまして、前年度並みに中学生俳句作品展、雑誌リサイクルフェア、おはなしのじかんスペシャル及び講演会等の大きめの事業を実施したいと考えております。ただし、俳句作品展に関しまして、区内の中学校と事前に調整したうえで、実施時期を決定したいと考えております。また、講演会等につきましては、予算編成の動向を注視しながら、こちらも検討していきたいと考えております。

「6 その他の事業」といたしまして、まちゼミinかめだが開催されることとなりました、より図書館の利用や資料の活用に密接に結びつけられるように意識して、こちらも参画していきたいと考えております。そのほかにつきましては、前年度程度の規模を上限としつつ、全体の方針等によって検討していきたいと考えております。実施時期につきましても、業務の煩忙度合いも考慮しながら調整していく予定です。

次、「Ⅱ-2 その他の取り組み」としまして、ブックスタート事業は引き続き、継続して実施してまいります。

「2 赤ちゃんタイム」につきまして、今、考えているのはもう一日、火曜日のあたりに拡大できればと考えております。ただ、なかなかおはなしのじかんは難しいところもありますので、ひとまずは赤ちゃんタイムのみの利用の拡大で今のところ考えております。

次に5ページをご覧ください。「3 展示」です。こちらも平成29年度と同様に季節感を生かしたのや課題解決につながるもの、事業とタイアップしたものなど、テーマを設け、運営方針に基づいて実施したいと考えております。さらに時事的なものでタイムリーなものもあわせて展示できたらと考えております。

「4 子育て支援コーナー」につきましては、設置スペースや資料数を拡大していきたいと考えております。

「5 施設見学」と6、7、8の研修等に関しましては、今年度と同様に実施していきたいと考えております。

「9 広報」につきまして、引き続き、利用者以外の区民に向けた広報を重点的に実施していきたいと考えております。また、予算編成の動向を見ながら、可能であれば館全体のPRのほか、親子向け、ビジネスパーソン向けの広報資材を作成しまして、周知拡大をしていけたらと考えております。来年平成30年度、移転開館後の入館者数が100万人を超える見込みになっておりまして、その時期に合わせてトピックスを積極的にアピールして、パブリシティを獲得できればと考えております。以上で説明を終わります。

(会 長)

ありがとうございました。ただいまの事務局の説明に関しまして、質問をお受けしたいと思えます。質問のある方は挙手をお願いいたします。

(竹之内委員)

一つお願いします。資料3-3、1ページ目の直近の成果と課題の中に、かつてない厳しさが見込まれる予算環境というのがあって、事業や経費の抜本の見直しが必要とあります。しかし、今、ご説明を聞くと、今年度同様や拡充といった言葉が見受けられるのですけれども、どこをどのように抜本的に見直しをされようと考えているのか、ご説明をお願いします。

(館 長)

こちらに関しましては、年々、予算が少なくなっている中で、なるべくお金をかけずに、お金はかけないのだけれども、効果的な広報ですとか、事業の実施ということができればと考えております。

(会 長)

ほかにどなたかご質問ありますでしょうか。

(石塚委員)

資料3-3の3ページ目ですが、「3 子どもの読書活動を推進する学・社・民融合型図書館」の中で、ブックスタートやおはなしのじかんなど子ども対象の事業を行うほか、教育機関等への講師派遣ということがありますが、具体的にはどういうことですか。

(館 長)

今年度も1件あったのですけれども、学校の読み聞かせボランティアを養成したいということで、誰か講師を派遣してくれないかという依頼がありまして、こういったケースの場合、講師として職員を派遣するという形になります。具体的にいうとそういったことになります。

(石塚委員)

もう一点、おはなしのじかんのところで、ポイントカードというか、参加者にハンコを押しているのですが、それについての効果はどういった感じなのでしょうか。

(事務局)

スタンプカードの実績につきましては、実際に平成 28 年度ですとか、平成 29 年度実績でも少しお話しさせていただいたかと思うのですが、実際に、スタンプカード自体を配布しまして、五つたまりましたら特典をお渡ししているのですが、昨年度に関しては特典をお渡しする数も増えておりまして、そういった形で事業の継続性といいますか、お客様がリピートするという形は想定されるのですが、実際の利用増につきましては、今、検証を進めている段階でございます。

(会 長)

ほかにどなたか質問ありますでしょうか。

(村山委員)

三つあります。資料 3-3、まず一つ目が、「もっと身近な図書サービス」に着手の○の一番下に地域で図書館資料を活用してもらおう方策の検討。これに関して、3 ページの 5 に効率的、効果的な運営を目指してと書いていまして、地区図書室の資源や図書館資料を活用した新たなサービスということなのですが、これについて別のことで、人の名前を挙げて悪いのですが、比企さんが合同情報交換会のときに話していました、図書室の本を図書館に返せないかという話をしていましたよね。これは、そういうことを言うのでしょうか。どういうサービスをやると思ったのでしょうか。

(比企委員)

私が言ったのは、図書館で借りた本を図書室に返すということです。

(村山委員)

自分の地域の近くの図書室に、丸山かどこですか。

(比企委員)

そうです。

(村山委員)

室に返せないかということなのですね。そういうサービスなののでしょうか。どういうサービスを言うのだろうか。図書室のサービスを図書館でやるサービスって何なのかと。今、比企さんの本の返却のことを言うのかなと。

(館 長)

そのことではありません。前にも協議会で説明させていただいていたかと思うのですが、地区図書室にある本を一部、団体貸出のセット本を組みまして、それを資源ということで活用していくという意味で、返却のこととは全く関係ないです。

(村山委員)

それについては、松浜の図書室が、本が足りなくなるのではないかとことを言っていました。団体貸出に持っていかれると困るという人がいました。

(館 長)

ただ、現在、そんなにたくさんセット本のほうに回しているわけではないので、状況を見なが

ら組んでおりますので、大丈夫です。

(村山委員)

次に、資料3-3で生活課題解決、ビジネス支援のさらなる有効化の中で、単発事業では効果が限定的で協働のほうはかえっていいと書いてあるのですけれども、例えば、どういう事業があったのでしょうか。行政書士とかですか。図書館がやるのは。すみません、資料3-3の1ページです。図書館の単発事業では効果が薄いと書いてあるのだけれども、どういう事業なのかと。行政書士のああいうものですか。

(館長)

少しとらえ方が違います。

(事務局)

単発事業ということで、今、例えば、行政書士の相談会をやっています。この日とこの日があります。ビジネスセミナーがあります。年1回だけです。そのイベント的な事業1回だけという意味での単発です。継続的に取り組みになっていないですよ。単独事業という意味ではなくて。

(村山委員)

継続性がないということですね。

(事務局)

そうです。その部分で効果が限定的になっているということの意味でございます。

(村山委員)

次に3番目、3-3の3の子どもの読書活動を推進する中のおはなしのじかんと書いてあるのですけれども、これを読んでいても矛盾するのではないかと考えているのですけれども。今、おはなしこっこの石塚さんなどは非常に活躍しているのに。今、養成講座をやっていますよね。どこでやっているのかよく分からないけれども。話をする人が少ないということですか。でも、これを見ると、回数は頭打ちだけれども、3年間で3か所が9割増として、やるといっばい来りたいですし、でも回数が少ない。でも、石塚さんみたいに一生懸命な人はいるけれども、ほかの人がいないということなのですかね。

(館長)

いえ、ほかにも団体がいらっしゃって、すごく積極的に。

(村山委員)

団体が五つくらい書いていますよね。

(館長)

活動はしていただいているのですけれども、図書館だけを活動場所としているわけではないので、調整をしながら今、実施しているところですので、なかなか回数が増やせないというところはあります。

(村山委員)

調整している。

(館長)

そうですね。調整して、今の回数の状態になっています。

(村山委員)

石塚さんには大変申し訳ないのだけれども、ほかのところは一生懸命活動して、図書館では少

ないというような感じです。

(館長)

図書館は活動場所の一つだけで、ほかにもいろいろなところ、学校ですとか、いろいろなところにおでかけになって、読み聞かせをしてらっしゃるのでということです。

(村山委員)

ということなの。

(石塚委員)

私がしゃべっていいですか。

読み聞かせの専門家ではないので、ただ、読むのが好きですし、またいらっしゃる方たちというか、子どもさん、親御さんと、絵本や本を通してお話をするのが、私は個人的に好きなので、できるだけ空いている時間があれば、図書館におじゃまして、そういう機会を得たいなと思って、私は足を運んでいるのですが。でも私も横越小学校や大江山の中学校のほうにもお世話になり、学校はいろいろなところ、阿賀野市立のほうなど、豊栄のほうなど、いろいろな図書館にも時間が合えば出向くという形を取っています。亀田の図書館が、後でできているということで、ここができる前からのおつきあいで活動していることが多いです。ほかのグループも山の下の図書館だったり、ほんぼーとだったりで活動していた方たちが、この館ができたので、地元だから協力しましょうということで、足を運んでくださっていたりするし、ここが5年目を迎えたのと同じように、メンバーも年々、年齢を重ねていて、活動域というか、自分の時間を取ることがなかなか難しくなってきたりといっって、気持ちはあるのだけれども、協力するには、少し限界があるかなということもあって。そしてでも、来てくださる方にとってはロコミだったり、楽しい思いをすれば、また次、来てねと言え、本当にお約束したように来てくださる方たちがいるので、だんだんお客さんは増えるのですが、やるほうも限界があるかなというか、そんな感じ。そして土日が主になるのですけれども、土日をここに来て、本を読むだけでということが、少し生活上、難しいということで、できる限りの協力はしたいと思っているけれども、毎回、ずっと回数を増やしていくということが難しく。定例の中で何グループもあるのですが、それを訳あって、私は、一生懸命と言ってくださいませけれども、実は定例は2か月に1回とほかのグループと区分けをしながら活動させてもらっています。スペシャルのときには、できる限り、協力したいと思っているので、その機会については、数多く参加させていただいているという感じになっています。ほかのグループも同じかなと思っています。

(村山委員)

現状ではと書いてあるけれども、現状はどういうことなのですか。石塚さんみたいな人がいないということですか。

(石塚委員)

そうですね。ボランティアからの声ですと、いつか、ブームがあって、ほんぼーとやほかの図書館のほうでも読み聞かせ養成講座というか、そういうものがあちこちでありましたけれども。今、図書館の司書たちも人数が少なくなっているかなというか、やはり予算の関係なのかと思うのですが、お忙しい様子が見られますし、講師の先生という方たちも、また年齢的なものや生活的なものもあって、そうそういらっしゃらないというか、お忙しくしていらっしゃるので。その講座自体が今は、ぼつぼつとはあるのですけれども、いつかほど盛んではないですし、その講

座を受けた方が全部ボランティアに移行するとか、今回、たまたま9人入ってくださったということですが、全員が入るというわけではなく。かえって図書館ではなく、地元の朝読書なら協力できますけれどもとか、地区公民館の中でなら読みますがということで、全部が養成講座を受けた人が図書館に来るということではないと。

(村山委員)

これは文書を読んでいても矛盾しているのです。

(事務局)

平成28年度まで徐々に拡大をしてきたのです。平成28年度でいっぱいいっぱいの状態で。

(村山委員)

何がいっぱいいっぱいなのですか。

(事務局)

回数です。ですので、回数を増やしてきて、今が限度、今の体制では今がほぼ限度だという状態なのです。ただし、1回当たりの参加者数、お越しいただく方は増えていて、そうするとこちらとしましても、子どもの読書環境の整備といいますか、子どもたちに本に親しんでもらうためにはいい取り組みなので、増やしていきたいのだけれども、でもそれを受け止める受け皿は今、用意しにくい状態にあると。

(村山委員)

曜日の絡み。

(事務局)

いえ、実施体制の問題です。人数の問題です。

(館長)

あえていえば、曜日なのですけれども、平日はなかなかお子さんたちが来られない。家族の方に連れてきていただかないと、ここは来られない場所にありますので。

(村山委員)

反対に土日だとがと来るわけですか。

(館長)

そうです。なので、土日に開催したほうが、皆さんに参加していただきやすいということもありまして、今、土日に割と限定して実施しているところです。

(村山委員)

分かりました。ご苦労さま。頑張ってください。あなたはプロだと思いますよ。

(会長)

ご質問よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、皆様から今後の亀田図書館の運営や来年度の事業などについて、ご意見をいただきたいと思っております。今ほど、示されました成果や課題を踏まえ、またそれらに限らずとも、皆様の関心やお考えに基づいて、ご自由にご意見を出していただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

(石塚委員)

おはなしのじかんのスタンプにこだわるわけではないのですが、いらっしゃる方がだいぶ増えてきましたので、スタンプで宣伝するというか、そのあたり一つ課題があるかと思っております。スタ

ンプがなくても、お客様が来てくださっているのです、かえってそのスタンプを押すのに手を取られるというところが、ボランティアとしてはどうなのかなというか、5個たまるとお子さんの写真が撮れるのですが、図書館の職員がそこにいてくだされば、すぐお願いしますと言えるのですが、お忙しくて近くにいらっしやらないときは、私たちがカウンターのほうとかに行って、すみませんポイントがたまっているのですけれども、写真をお願いできますかと呼びに行かなくてはいけないと。その間、ほかの人たちはずっと待っているわけですね。その辺が大変、せっかく楽しみに来ていて、絵本を読んだ後の余韻に浸るまもなく、少し違う意味で負担を掛けているかなと思うのです。スタンプが有効になるということ考えた場合、なくてもいいのかなとか、逆にスタンプを集めたときに写真を撮ってもらえるということをしていらしている方たちは知らない。このハンコを押してもらったらどうなるかが分かっていなくて、ただ、スタンプを押してもらっているのにお待たせして、ほかの人たちにも少し待っていてねとか、写真を撮るための場所を空けなくてはいけないとか、そういうことが課題になっているかなと思います。考えていただけるといいかと思います。

(村山委員)

満杯になったら何をするという事は言っていないの、書いていないの。

(事務局)

特典をお渡しするという事は広報しているのですけれども、具体的に写真というところまでは。

(館長)

いただいたご意見を基に、今後、どのように対応していったらいいか検討させていただきたいと思っておりますので、大変失礼いたしました。ありがとうございます。

(会長)

順番に聞いていっていいですか。隣の比企さんから。

(比企委員)

私もいつもこの会に出席させていただいて、あまり意見も述べたことがないですけれども、本当に頑張ってくださいと思っています。私も実は、この夏、孫が生まれまして、子どもにいっぱい本に触れてもらいたいなど。少し離れているのですけれども思っていますので、これからもよろしくお願いします。石塚さん、ありがとうございます。

(片山委員)

よい活動をたくさんしてくださっているなと思いますので、また今後も継続していただければと思います。限られた予算の中で何に重点をかけていくのか考えてやっていかれば良いと思います。よろしくお願いいたします。

(竹之内委員)

私も限られた予算の中で、いろいろな活動をしていただいていることに感謝いたします。特に今年は中学生にも読み聞かせをしていただけるということで、子どもたちも楽しみにしていますし、私は中学生に読み聞かせってどうなのかなと当初、思っていたのですけれども、話を聞くということで、集中力が鍛えられたり、あるいは創造力を膨らますことができるということを知り、本当にありがたいことだと心から感謝申し上げます。ぜひこうした活動を続けていただければありがたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

(垣内委員)

図書館はとても頑張っているから、図書館に来てもいつも笑顔で対応してくださるので、とても感謝しています。私も本を借りたいときに、ラジオで本の紹介をしていて、本のタイトルがよく分からなくて、カウンターで聞くとすぐ調べてくださって、これは34巻シリーズですと言われて、ラジオで聞くときはほんの一部なので、いい本だなと思って聞くのですけれども、きちんとカウンターで調べて教えてくださるので、とてもうれしいです。書架の返却のボランティアをしているのですけれども、年々本が増えて、書架がきっちりになって、予算は限られているのですけれども、とても本が増えていて、入れるのが大変な状態になっているなど思いながら本を返していますので、充実していると思います。また、今、絵本の読み聞かせを朝読書の時間に丸山小学校へ入っているのですけれども、この前、2年生の教室で「ふしぎなボジャビのき」というものを読んだときに、作者と訳を言ったときに、2年生の子が「訳って何？」と目の前で聞いてきたので、外国の言葉を日本の言葉に直すことだよと言ったら、へえと言って聞いていたので、そんな触れ合いもできながら、楽しい朝読書の時間を過ごさせていただいているのですけれども、やはり本にかかわって、自分でもいろいろな発見があったり、図書館の頑張りが見えたりということでも過ごさせていただいています。

(会長)

垣内委員ありがとうございました。

では、続いて、村山さんお願いします。

(村山委員)

私は、長年やらせてもらって、いろいろな発言をして、大変申し訳ないと思っています。

いろいろな館長にも言っているのだけれども、豊栄、新津、西川、白根というような中で、亀田図書館が8図書館の中心図書館になったという話をしまして、そのときに亀田のまちなかからこちらに新しく来たときに、4万冊しか蔵書がなくて、ほんぽーとは別としてほかの大きいところはみんな10万冊の図書があるので、何とか亀田も10万冊にしてよと言ったら、本の棚が11万冊しか入らないという話で、上と下は、地震の絡みや重さの絡みで入らないと言って、10万冊はどうだろうという話で、今、見ていると8万1,000冊ですから、もう少し頑張ってもらいたい。ただ、予算の絡みがあるから。ずっと私は図書館にいて、早くほかの図書館と肩を並べてほしいというのがありました。今でも思っています。

それから、全く違う話なのだけれども、読み聞かせの話の先日の合同の会議のときにも、最近、老人に対する読み聞かせもやってほしいという人が、朗読会もやってほしいとか。もとBSNのアナウンサーが老人に対して読み聞かせをやっているような話をちらっと聞いたのだけれども、そういうことはできるのでしょうか。昔話とか、そういうことは分かるけれども、読み聞かせだと。少し懸念しています。今、幼児や子どもだけでもしょう。年寄りもいますか。

(石塚委員)

はい。絵本にこだわらないですし、絵本って、多分、皆さんご存じないから、小さい子のものだと思っているのですけれども、大人もすごく癒やされるので幅があります。ジャンルがいろいろあるので、赤ちゃん絵本から科学絵本だとか、発見をしていくものだとか、心にじんときてくるものだとか、怒りを覚える絵本とか。その分野で対象の方に合わせたものを持って行って、求めていらっしゃる方たちと一緒に、それでお勉強ではないので、それを介してコミュニケーションを

するということが読み聞かせスタイルですし、朗読はまた違う分野にはなるのですけれども、でもやはり自分で読むときには、それこそ先ほど、訳の話がありましたけれども、文字を拾って、それを自分の頭の中で、自分の分かる範囲に翻訳して受け取らなくてはいけないのですけれども、人に読んでもらうとその作業はなくて、聞きながら自分の想像をしたり、余裕のある方はお話の想像をしつつ、日常のことも同時進行で考えるくらいの余裕が持てるということで、読んでもらうということがとてもいいということで。ただ、小さい子たちは生活経験がないので、絵が添えであると、より想像しやすいということで絵本というのがありますが、大きくなってきたら絵が少なくなっても、生活の映像と自分流の受け取り方でいろいろお話を楽しんだりできるということで、今、高齢者の方たちに、私は昔語りもするので、絵本を読んだり、昔語りをしたり、わらべうたを歌ったりという感じでコミュニケーションをとらせていただいているので、年齢は問わないと思います。

(村山委員)

前に横越の昔語りをちょうどあそこでやっていて、今もやっているのですか。

(石塚委員)

そちらにもおじゃましたりしています。

(村山委員)

あれはよかったですね。

(田村委員)

私は俳句のほうから代表になって来ているのですけれども、先日、角川の編集長という人と、何なおきさんだったか、有名な人だそうですねけれども、その方と一緒に俳句の部屋を見に来ました。高野素十の特集を書くために新潟が高野素十という俳人によって今、俳句が続いているものだから、そこで私はこの図書館をご案内しました。本当にびっくりして、こんなに俳句だけでこれだけのスペース、これだけの蔵書があるところはないということです。東京のど真ん中にある角川の編集長がそのようにびっくりするのだから、よほどいいのだなと思って、図書館の人たちにお礼を申したいと思います。充実させていただいて、私もほめられた感じで、とてもうれしかったです。

(遠藤委員)

私も設立当時から委員をやりまして、今日が最後の会議なので、非常に図書館の職員の皆さんはよくやっていらっしゃると思います。ただ、それぞれ目標を立てて、数字的な目標を作っておりますので、先ほどの話ではありませんが、スタンプで余裕がないと。やはりイベントをいろいろやってきた中で、そろそろ集中してやるもの、やめるものとか、いろいろ選択する中で、特色を作っていただきたいと思います。あまり数字にこだわらないで、来た人が満足すると。そういう感覚的な話ですけれども、そういうものを考えていってほしいなと思っております。

(会 長)

最後になりましたが、私も6年間、務めさせていただきまして、ありがとうございます。先ほどから言っていたおはなしのスタンプですが、私もボランティアとして参加していて、うちは複数で入っているので、スタンプ係というのを設けることができるのですが、土日は特にカウンターがお忙しそうで、声をかけるのも申し訳ないし、やはり子どもたちも待たせると熱が冷めてしまうので、他館がスタンプをやっていますということで始められたと思うのですが、もしでし

たら手間のかからない写真ではなく、最初はほんぼーとさえもこの折り紙というものだったそうなので、しおりでもいいです。逆に協働で、例えば、ほんぼーとですと、どこかの中学校の支援学級で作られたしおりとか、公民館でやっている折り紙教室の人に頼んでもらった飾ってある恐竜の折り紙とか、そのようにカウンターの手をわずらわせるのが少なくてもいいようなものに変えていくこともどうかとは感じました。

ブックスタートが江南区で1か所になってしまっていて、お母さん方が1か所に集中して亀田のところに来られることになったのですが、悪い点ではボランティアを今まで続けていた人たちが、曾野木で足で通えたところが、亀田になったためにボランティアができないですと、継続ができなくなってボランティアが減ってしまったことはマイナスでしたが、お母さん方と、いろいろ曾野木や大江山のほうから来られる人たちに、この亀田の図書館はあそこですよを全員にご紹介できて、それはとてもプラスになっているなと思いました。ボランティアをしているときは、自分の目の前の赤ちゃんにしか集中しないのですが、司書の方が休みの日が金曜日なのですが、休館日にもかかわらず出勤されて、準備をされて、私たちには見えないお子さんの様子を見て。子どもたちが泣きながらやってくるけれども、その前がちょうどフッ素で泣かせられている状態で、わんわんと泣いてくる子ども本の前ではいい顔になって帰っていて、やはり本の力ってすごいですねと司書の方から言うていただけるといのは、ボランティアとしても励みになりますし、子どもの読書環境をつなぐという意味でも、とてもいい事業なので、ぜひ継続をしていただきたいと思いました。

もう一つ、小学生の俳句なのですが、大淵小学校全校俳句を作られたという、田村先生が講師になられて、全校で1年生から6年生まで俳句に親しまれたというのは、やはり若い人たちに俳句が継続されていないという懸念が、多分、田村先生も感じていらっしゃると思うのですが、そういう底上げの上から、中学生も全員になりましたが、小学生から親しめるという環境を整えていただくという意味で、図書館が多分、つなぎ役をしていただいたと思いますので、これからもそういう活動にもお手伝いしていただければ。やはりウィンウィンではないのですけれども、そういう意味でも頑張ってもらいたいなと思います。また、今年の継続も大事ですが、新津図書館のようにトピックな企画も、夜のお泊まり図書館とか、委員は提案したけれどもだめですと言われて却下されたそうなのですが、水族館でお泊まり水族館というものがあつたので、図書館でお泊まりはどうですかと言ったら、ちょっと警備の問題上と言われてたり、図書館でどうして寝て面白いかなどいろいろ却下されたそうなのですが、柔軟な発想でお金のかからない企画をどんどん作っていただけたら、周りの人たちもえっと思っ来てくれるのではないかと感じました。長くなってすみません。

これでよろしいでしょうか。皆様からご意見いただきましたところで、事務局、本日出されたご意見を今後の方針決定や事業展開等の参考にさせていただきまして、私のほうの議事はこれで終了させていただきたいと思ひます。委員の皆様、ご協力、ありがとうございました。では、進行を事務局にお渡しします。

(司 会)

それでは、佐藤会長、委員の皆さん、大変ありがとうございました。長時間に渡りまして、ありがとうございました。

最後、事務連絡ということで、お手元の評価についてご説明させていただきます。

「平成 28 年度亀田図書館の施策事業及び実績の評価について（お願い）」をご覧くださいませか。先ほど、自己評価のご説明を申し上げました、図書館ビジョンの評価シートについて、皆様から評価をいただきたいというお願いでございます。評価シートにつきまして、改めまして、このお願いとともに机上配付させていただきました。ナンバー 1 施策事業評価シートとナンバー 2 指標別評価シートの 2 枚でございます。お名前をご記入いただく欄を設けて、評価いただく欄を枠囲みしたもので、内容は先ほど用いました資料 1 と全く同じでございます。こちらのお名前をご記入いただきまして、それぞれにあります、3 大変評価する、2 ある程度評価する、1 評価できないのどれかを○囲みしていただきまして、適宜、外部評価欄の空欄のところにご意見等をお書き入れいただきたいと思っております。こちら大変お手数ですが、評価をいただきまして、11 月 24 日（金）までに、添えてあります返信封筒等にてお返しをいただきたいと思っております。取りまとめた評価結果につきましては、改めて皆様には郵送でお示しするほか、図書館ホームページなどで他館の分も含めまして、公開をさせていただくことにしております。大変ご面倒ですが、よろしく願いいたします。

以上、事務連絡でございました。

（館 長）

それでは、本日は貴重なお時間をいただきまして、まことにありがとうございました。任期を終了される皆様、今後も亀田図書館をぜひよろしく願いいたします。